

食用ユリの増殖法

農業センター

1 取り上げた理由

中山間地域農業に適する食用ユリは高級料理、高級生菓子の原材料として需要があり高価格で流通している。増殖技術について検討した結果、簡易な増殖法が明らかになったので参考資料とする。

2 参考資料

1) りん片増殖法 りん片をほ場に直植えしりん片子球を得る。りん片子球は1りん片当たり3個程度着生する。8g以上の子球は1作すれば出荷規格のりん茎(80g以上)に達する(表-1, 表-2)。

りん片は1りん茎から30~40個得られ、植付期は10月中旬、種子消毒剤を粉衣し植え付ける。栽植密度は10×10cm程度とする。施肥量は基肥成分量(kg/a)でN-1.1, P₂O₅-3.2, K₂O-0.8, 主として有機質肥料を施用する。追肥は春萌芽期と着蕾期にN-0.5, K₂O-0.5づつ施用する。

2) 木子増殖法 木子を1作するとりん茎は10~50gに肥大する。このりん茎を更に1作すれば出荷規格のりん茎に達する。通常着生木子数は株当たり3.5個程度で1g以下の小さいものが多い。増殖に供する木子は2g以上のものが望ましい(表-3)。種球消毒, 栽植密度, 施肥量についてはりん片増殖に準ずる。蕾が1~2cm伸びた頃摘蕾する。

3) りん茎分球増殖法 出荷規格に達したりん茎には2~3個の分球芽が見られる。これを分割10~40gの種球として供用する。この分球りん茎は1作で出荷規格のりん茎に達する(表-4)。栽植密度は畦間60~70cm, 株間15cmの1~2条植えとする。その他はりん片, 木子増殖に準ずる。

3 利活用の留意点

1) 摘要品種は白銀とする。

(問い合わせ先: 農業センター農産部 電話 022-383-8122)

4 背景となった主要な試験研究

1) 試験研究課題名及び研究期間

中山間地域の特性を生かした畑特作物の高生産性栽培技術体系の確立（平10～11年度）

2) 参考 データ

表－1 鱗片増殖区, 鱗片の出芽率・生育・鱗片子球着生状況(平 10)

出芽率	収穫時の草丈	鱗片子球着生個数	鱗片子球の重量別着生比率		
			～ 1.9g	2.0g ～ 7.9g	8.0g ～
(%)	(cm)	(個/株)	(%)	(%)	(%)
78.0	31.5	3.0	23	56	21

表－2 鱗片増殖区, 鱗片子球の鱗茎肥大・木子着生状況(平 11)

試験区 (鱗片子球重)	出芽率	収穫時の草丈	鱗茎重	木子着生個数	木子の重量別着生比率	
					～ 1.9g	2.0g ～
(%)	(%)	(cm)	(g/球)	(個/株)	(%)	(%)
～ 6g	100.0	65.1	66.5	5.0	69	31
8g ～	100.0	75.1	81.5	3.4	92	8
10g ～	100.0	84.5	105.7	3.4	100	0

表－3 木子増殖区の鱗茎肥大・木子着生状況 (平 10)

試験区 (木子重)	出芽率	収穫時の草丈	鱗茎重	木子着生個数	木子の重量別着生比率	
					～ 1.9g	2.0g ～
(%)	(%)	(cm)	(g/球)	(個/株)	(%)	(%)
～ 0.9g	91.7	34.9	12.2	4.5	68	32
1g ～	92.6	44.0	15.6	4.4	53	47
2g ～	87.0	45.0	20.6	2.9	52	48
3g ～	92.9	50.4	35.6	2.2	56	44

表－4 鱗茎分球増殖区の鱗茎肥大・木子着生状況 (平10, 11年平均)

試験区 (分球鱗茎重)	出芽率	収穫時の草丈	鱗茎重	木子着生個数	木子の重量別着生比率	
					～ 1.9g	2.0g ～
(%)	(%)	(cm)	(g/球)	(個/株)	(%)	(%)
～9.9g	100.0	65.3	75.2	3.5	96	4
10g～	100.0	81.6	87.1	3.5	100	0
20g～	100.0	83.7	104.7	4.3	97	3
30g～	100.0	93.0	130.2	5.8	98	2
40g～	100.0	100.0	151.8	5.8	98	2

3) 発表論文等 なし